

気泡で瓢湖きれい



瓢湖に設置されたナノバブルを発生させる装置＝14日、阿賀野市

大阪と横浜の企業

市瓢湖管理事務所によると、毎年春秋に実施している水質調査では近年、「標準よりやや悪い」という結果が続いている。野鳥が集まる冬場は餌やふん、腐った植物などで水質が悪化する傾向にある。ただ、条約に登録されていることや費用の面などから、大規模工

市瓢湖管理事務所によると、毎年春秋に実施している水質調査では近年、「標準よりやや悪い」という結果が続いている。野鳥が集まる冬場は餌やふん、腐った植物などで水質が悪化する傾向にある。ただ、条約に登録されていることや費用の面などから、大規模工

水質改善 実験開始 効果出れば導入も

目には見えないほど超微細な気泡「ナノバブル」を用いて水質を改善する実証実験が14日、阿賀野市のラムサール条約登録湿地・瓢湖で始まった。小さな気泡が水底まで酸素を運ぶ装置を設置。ヘドロを分解する微生物を活性化させる実験を30日まで続ける。効果が確認されれば、市では装置の導入を検討する。

紹介もあり、瓢湖での実証実験が決まった。四方を浮輪で浮かせ、水中にあるセラミック製の回転翼が気泡を出す。水圧で圧縮され、水より

この日は開発した2社の担当者らが瓢湖を訪れ、水深などを確認しながら、設置場所を決め、ロープで固定した。装置

も比重が重くなった気泡が、湖底に酸素を届け、バクテリアによるヘドロ分解を促進させるという。太陽光発電パネルを

の効果は既に横浜市の入り江などで確認済みだといいい、今後は琵琶湖で水質浄化実験を行うという。

瓢湖管理事務所は「瓢湖の現状を維持したまま、水質浄化ができれば画期的だ」と効果に期待している。